

地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
1. 理念と共有			
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	住み慣れた地域で、利用者が地域の方との交流を持ちながら、安心して暮らして行けるよう、事業所独自の理念を作り尊厳のある生活を送れるよう支援している。	
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ミーティングや申送り、日々の取り組みの中で理念を掘り下げて職員の間で話し合い、具体的なケアについて統一を図っている。	
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	家族へは、家族会、訪問時にたよりや、折に触れて理念などを伝える等し、地域の行事にも積極的に参加している。また、地域の方が気軽に立ち寄ってもらえるようオープンにした環境作りに取り組み、地域との交流を目的とした毎年恒例のバザーの開催でもホームの理念を理解して頂き、協力を得て取り組んでいけるよう実施している。	
2. 地域との支えあい			
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	毎年、ムーチーを隣近所に配布したり、日常的に散歩に出かけ、近隣の方々と挨拶を交わしたり、野菜や花などのおすそ分けや手づくりのおやつでスムーズな近所付き合いができるよう努めている。	
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の行事である運動会、お祭り、エイサーの見学など利用者の方と一緒に積極的に参加し交流を持っている。また外道の清掃などで地域の方と顔なじみの関係を作ることで気軽に立ち寄るようになり、時には食事やお茶などをホームと一緒に頂くこともある。	○ 大名主催の「ふれあい交流会」へ参加し昼食を頂きながら地域交流を図っている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	人材育成の貢献として看護、福祉の実習生、中学生の職場体験学習の受入れに積極的に取り組んでいる。また地域の1人暮らしの高齢者宅へ散歩がてら立ち寄りなどし、地域の方からの相談も受けている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価の結果をふまえ、改善計画を作成し、取り組んでいる。自己評価を全職員で行い、サービスの質の向上に努めている。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1度開催し、事業計画の報告と実施内容の報告の他、バザー等の行事の話し合いなどで活発に意見交換されている。	○	会議開催日にホーム行事のバザーを組み合わせるなどし実施した。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営に関して意見交換をしている。また運営推進会議議事録で情報提供を行い連携をとり、意見を伝える際の窓口については、ホームのほかに外部機関の窓口の案内を重要事項説明や、掲示で行なっている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	地域福祉権利擁護事業や成年後見制度については、資料を家族や必要な方に説明できるように準備している。	○	権利擁護に関する勉強会を継続し、定期的に行なう事で、必要な時に支援できる体制を整えたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所内外での虐待が見過ごされることがないように、日頃より利用者の状態の把握等に努めている。	○	高齢者虐待防止法に関する理解を深め、取り組めるよう定期的に勉強会を実施したい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>重要事項説明の際は、時間をとり、事業所で対応出来る事、出来ない事を明確に説明し重度化や、看取りの指針、医療連携体制についても詳しく説明し、同意を得ている。</p>	
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>月に1度市民相談員の方に訪問してもらい、利用者の相談にのって頂き、意見については検討が行われている。</p>	
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>家族の訪問時に生活の様子や健康状態、職員の異動等について定期的に電話やたよりなどでも報告している。金銭管理については金銭出納帳を明示している。</p>	
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>日頃より家族が意見を言いやすい雰囲気心がけて、家族会などで、気軽に情報交換ができるような場を提供している。また玄関へ意見箱の設置や、苦情窓口担当者名を掲示し、意見などがあつた場合は課題を検討し、取り組んでいる。</p>	
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>ミーティングや、個別での面談で意見や提案を聞く機会を設けているが、日頃のコミュニケーションの中から意見を言いやすくするよう心がけ反映させるよう努めている。</p>	
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>日勤では3名以上の職員を配置し、利用者の状況の変化や職員の急な休みの時にも対応できる体制をとっている。また、勤務時間、業務内容も定期的に見直しを行なっている。</p>	
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>職員が日々誠心誠意、利用者に接する事で馴染みの関係が築かれている。職員の人事に関しても異動は最小限に控え、やむなく異動する場合でも老人福祉で長年の経験者を配置し利用者の不安を取り除く等、配慮をしている。</p>	<p>○</p> <p>利用者と家族、職員とのふれあいの機会を今まで以上に多く持ち、利用者と家族が不安を感じない様、安心して生活を送れることができる環境作りに努めていきたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
<b>5. 人材の育成と支援</b>				
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	各職員、年度始めに目標を掲げ年間を通してその目標に向かって取り組みスキルアップを図っている。施設内外の研修に関しても計画的に参加している。	○	毎年グループホームの研究のテーマを決め全職員が日々の業務の中からも介護技術、知識が高まるような取り組みにチャレンジしたい。
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	グループホーム連絡会に加入し、施設見学会、意見交換会、研修会へ参加し、交流する機会を持ち、他事業所の意見や経験もケアに活かせるよう取り組んでいる。		
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	職員の不満やストレスをそのままにするのではなく改善できる事については十分に話し合い改善して行く環境作りに取り組んでいる。	○	一息つける休憩時間や心身を休める空間に関してはまだまだ十分とはいえないのだが、今後ストレスを軽減させる為にも居心地のよい場所の確保に努めていきたい。
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	職員8名中、6名が介護福祉士の資格、内2名が介護支援専門員と並々ならぬ向上心で日々努力している。	○	人事制度を運用していることもあり職員がやる気や向上心をもって取り組んでいる。
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>				
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	入居前に本人が落ち着いて話せる場所へ出向き、直接会い不安に思っている事や要望を聞き、本人の置かれている状況を把握するよう努めている。		
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	家族の希望する時間帯に合わせ、ゆっくり話が聞けるよう配慮し、数回にわけて相談も行っている。		

沖縄県(グループホーム めくめくの家・幸)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時に本人と家族が優先的に必要なサービスを把握し、他の事業所の紹介や内容などの説明なども行い対応している。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に本人も一緒に見学や体験(おやつを一緒に頂いたり、レクレーションに参加する等)を要望に応じて行い、ホームの雰囲気や職員に馴染めるよう配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は日常のケア以外にもホーム行事の準備等を共に行い、得意な分野や有する力を引き出す努力を行っている。また、利用者同士の関係作りにも努めている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族のこれまでの自宅での介護やサービス利用に至るまでの思いを把握し入居者の日々の出来事や情報を共有しながら一緒に協力し支援して行けるように努めている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	本人、家族の想いを受け止め、職員は家族がいつでも気軽に足を運びやすい雰囲気を作り、行事に家族を誘ったりしながら関係の継続に努めている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの関係が途切れないよう、家族へも協力してもらい定期的に外出や友人をホームに招く機会を設けている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士でも過ごせる場面を作り、見守りながら役割活動などを行い、利用者同士の関係が円滑になるように支援している。		

記入日:平成20年7月16日

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	他の事業所へ移られた後も、時々本人や家族と会う機会を持ち、関わりが持てるよう心がけている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話や表情、行動などから利用者の思いを汲み取るよう務め、家族や友人の話などの情報も得て、どのように暮らす事が最良なのか検討している。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者の生活歴の把握が十分に出来ない時には家族の許可を得て、面会時等に親類や友人からも情報を得ている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	利用者1人ひとりの生活リズム(食事・排泄・睡眠時間)を把握し、体調の変化、心理面を理解し本人のできる力を引き出すように支援している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者の方がより豊かに生活できるよう、本人や家族、職員間で意見を出し合い情報の共有に努め介護計画の作成に活かしている。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月に1回評価見直しを実施し、新たな要望や変化が見られた場合、家族・本人の要望に応じ介護計画の見直しを行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の介護記録を用意し、食事・水分、排泄、身体状況、日々の暮らしの様子や本人の言葉等を記録し、全ての職員がいつでも確認できるようにして情報を共有し介護記録を基に介護計画の見直しを行なっている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	状況に応じて受診や送迎等、必要な支援は訪問看護と連携をとり、早期の対応につなげ柔軟に対応し、本人、家族が安心して過ごせるよう支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	利用者が心身共に安心して暮らして行けるよう、月1回の市民相談員との意見交換、定期的なボランティアの協力を得、支援している。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	同法人のディサービス事業所と話し合い、本人の意向に応じて地域交流会を目的としてディサービスに参加している。また本人の希望に応じ、訪問理美容サービスを利用してもらっている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターと、今現在直接的に関わる機会を設けていない。	○	今後は周辺情報や支援に関する情報交換、協力関係を築いていきたい。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は希望する医療機関を利用してもらい、家族の対応が不可能な時には、職員が対応し、主治医と連携をとり、往診などの適切なサービスが受けられるよう支援している。	○	利用者の日頃の状態把握に努め早期の対応ができるように訪問看護や主治医との連携を図り、入居者、家族と相談しながら健康管理に努めている。家族のみでの受診は状況の把握ができるよう受診前に情報を提供し受診後は状況を確認している。

沖縄県(グループホーム めくめくの家・幸)

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	定期的に全職員が勉強会に参加し、意識向上を計っている。日々の関わりの中で、本人の誇りを守るような声かけが心かけ、対応についても気付いた点は話し合うようにしている。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	本人に合わせた方法(ジェスチャーやボード等)で伝達し、意思を確認し本人が決める場面を作り、着たい服や、飲みたい物、したい活動などを選んでもらっている。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れはあるが、利用者の健康状態を把握しながら自立支援に向けてのケアを実施し、できるだけ利用者がしたい事をその人のペースに合わせて支援している。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	朝の着替えは本人の好みで決めており、日頃から化粧やおしゃれを楽しめるよう取り組み、支援の必要な方は手伝っている。美容室は本人のなじみの店へ行ける様支援し、体調や希望に応じ、訪問理美容を利用している。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	栄養士による献立表に基づいて利用者と一緒に食材の準備から片付けまで行っている。器は陶器の物を使い、盛り付けも楽しみながらできるような行っている。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	利用者が望む嗜好品を準備し、時間や本人の様子を見て支援している。	

沖縄県(グループホーム めくめくの家・幸)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェック表で利用者の排泄パターンを把握し、トイレで排泄がスムーズにできるよう支援している。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的には、週2日本人の意向に合わせた方法で入浴をしていただいているが、入浴日以外にも本人の希望を確認し、感染予防や清潔保持の為に入浴や足浴を行っている。また外出がある時などは時間帯を合わせ柔軟に対応するようにしている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	日中の活動は体調を考慮しながら促し、生活リズムを整え利用者の居室の照明の明るさを配慮するなど、ゆっくり休めるよう支援している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事の準備・掃除や、個々に合わせたレクリエーション活動などで力を発揮していただいている。行事の準備なども一緒に相談しながら行っている。	○	個々にあった余暇活動をより充実させる為に本人が好む活動を把握し本人のペースで支援していきたい。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分の財布からお金を出すことにより満足され、お金がある感じや、安心感が得られるように支援している。自己管理できない方は事業所が預かり、外出時には本人に払ってもらい社会性の持続につなげるようにしている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日は近所へ散歩に出かけ、遠出の場合は歩行困難な方は車椅子を使用し戸外へ出かける。またドライブも行き、外食する機会をもうけている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	利用者の希望を聞き、予定を立て買物や季節の行楽行事を支援している。また個別で古里訪問を計画し、自宅への一時帰宅などは家族へ協力を依頼し実施している。		

記入日:平成20年7月16日

沖縄県(グループホーム めくめくの家・幸)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	毎年、年賀状を出すための支援を欠かさず行い、利用者の希望により家族や友人に電話のやり取りができるよう支援している。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族や友人、知人等いつでも気軽に訪問できるよう、訪問時間は定めず、都合のいい時間に来て頂ける様な配慮をしている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束が行われないケアを実践するため、日頃のケアを振り返り、気になる事があれば話し合うようにしている。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関や窓は、いつでも開放し、心理的な不安閉塞感なく、安心して過ごせるように工夫している。また、近所の方にも声かけや連絡をしてもらえるようにしている。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	2F建ての構造の為、利用者の動きやサインを見落としやすい。その為利用者の所在や様子を把握しやすい場所での記録や作業を行い、安全に配慮している。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	洗剤や刃物、薬等は職員が管理をしている。洗剤、刃物の使用時は職員が見守りしながら一緒に作業し、安全に努めている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	転倒や誤嚥のリスクの高い利用者に対して見守りを行い、食事支援では刻み食を提供し、ヒヤリハットを申し送り等で職員の共有認識を図っている。事故発生時は報告書を作成し事故防止について検討している。		

沖縄県(グループホーム めくめくの家・幸)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	応急手当の勉強会の実施や緊急時のマニュアルを作成しミーティング時に周知徹底している。	○	緊急時のマニュアルは状況に応じ定期的に見直しを行っている。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	火災報知器を設置し、消火器や避難路の確保と設備点検を行い、避難訓練や消火器の使い方など定期的に訓練をしている。また地域の方へ協力の声かけを行っている。	○	今後は近隣住民も一緒に参加するような定期的訓練を実行したい。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	家族訪問時や電話などで、利用者の状況報告をしながら気付いた事や、起こり得るリスクについて対応策を説明し、理解を得られるよう努めている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	顔色や様子に注意し、バイタル測定を行い日々の排泄、食事量をチェックし、早期の発見に努め、変化時には記録に残し、受診等へつなげている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書を用意し、内容が把握できるようにしている。服薬時は本人に手渡し、服用できているか確認を行い、状態に変化がある時は、家族へ連絡し主治医に相談している。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	日々の排泄チェックを行い、食事や水分に配慮し、散歩を行っている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の口腔ケアを行い、衛生水等を利用し、清潔保持に努めている。		

記入日：平成20年7月16日

沖縄県(グループホーム めくめくの家・幸)

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士の作成したメニューをもとに食事を提供し、摂取状況を毎日チェックし、夜間も水分をとってもらっている。食欲がない時や、希望に応じ主食を変更したりと柔軟に対応している。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	手洗い・うがい等行い清潔保持に努めている。毎年、インフルエンザ予防接種を行い、皮膚疾患時は病院受診を行い、早期対応に努めている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	新鮮な食材を提供し、調理用具等の使用後は殺菌消毒を行い衛生に努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	緑豊かな中庭があり、休憩できるベンチを設置し、利用者・家族・近隣の人等が安心して出入り出来るよう工夫している。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間・廊下には椅子やソファを設置し、くつろぎ易いよう工夫している。壁には行事写真や、利用者が作った作品を飾り居心地のよい空間作りをしている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブル・ソファ・椅子を2～3名で過ごせる場所に配置し、文庫などを準備し、くつろげる場所作りをしている。		

沖縄県(グループホーム めくめくの家・幸)

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の入口に表札を掛け、利用者が迷う事のないよう工夫している。室内には使い慣れた日用品や家具、自作の絵、思い出の写真、テレビ等を使用してもらい、安心して過ごせるよう配慮している。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	リビング、食堂、居室の窓を定期的に関換気を行ない、冷暖房使用時には利用者の発汗や冷えなどに注意し温度調整している。日中トイレの窓は開放し、換気扇と消臭剤で悪臭が出ないように工夫している。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	玄関に椅子を置き、安全に靴が履けるよう配慮している。全てのベッドに立位バーを取り付け、起き上がり、立ち上がりの自立を安全に行えるよう工夫している。ポータブルトイレ使用時、足元にスベリ止めを敷き転倒防止に努めている。また、状態の変化に応じ家具の配置や手すりの高さ、位置も見直している。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	利用者の方が不安や混乱なく席に着けるよう、食卓テーブルの上に名前シールを貼っている。居室内のタンスに衣類、タオル、パット等の名称シールを貼り、利用者自身で出し入れが分かり易いよう工夫している。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	庭に花を植え、観賞したり植木の水やり、掃き掃除等の活動ができるよう環境作りを行っている。庭にベンチを置き、くつろげるスペースを設けている。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

沖縄県(グループホーム めくめくの家・幸)

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

めくめくの家・幸では、高齢者が住み慣れた地域で安心して生活を送ることができるように、家族や友人など馴染みの方と継続して関係をもち、地域の方をはじめ、誰もが気軽に足を運べるよう、日頃より利用者と共に地域の一員として地域活動に参加したり、ホームの行事に参加して頂いたり関係作りに努めています。「ここがあるからもう安心」と思っていただけよう地域の方へグループホームの理念を御理解いただき地域の拠点となるホームを目指し取り組んでいます。また日常生活の中で職員は利用者の培ってきた経験を発揮できる場面を提供できるよう、季節行事でお盆の重箱作りやムーチー作り、個別での外出など行い、利用者一人ひとりの誇りを大事に、楽しみや喜びある生活を創意工夫を行い満足していただけるよう取り組んでいます。

記入日:平成20年7月16日